

広陵町中小企業・小規模企業振興計画に基づく 振興施策提言書

令和元年11月18日（月）

広陵町中小企業・小規模企業振興会議

はじめに

広陵町は平成28年7月に「広陵町中小企業・小規模企業振興基本条例」制定に向けた検討会を立ち上げ、町内事業所をはじめとした地域のみなさまと共に、ワークショップを通して議論を重ねながら、平成30年10月に「広陵町中小企業・小規模企業振興基本条例」を制定しました。

平成31年4月には、この条例に基づき、中小企業・小規模企業の振興に関する方針と施策内容の共有を図り、町内それぞれの主体が積極的に参画・連携・協力しながら中小企業・小規模企業の振興を推進することを目的に、「広陵町中小企業・小規模企業振興計画」を策定しました。

この計画に基づき、今後の施策を検討すべく、人材・経営基盤を考える「キャリアアップ部会」、地域間連携・ブランド・情報発信を考える「イメージアップ部会」の2つの課題別小委員会を立ち上げ、今後の目指すべき姿と課題解決策を議論し、今回提言書を完成させました。

広陵町は（仮称）産業総合振興機構の設立も控え、今後はさらなる産業振興に取り組む必要があります。

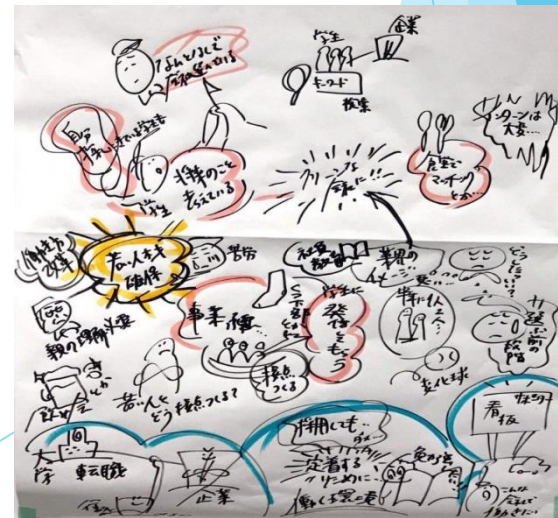
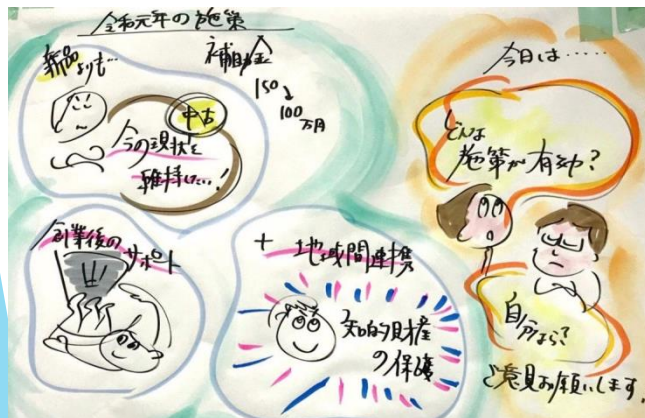
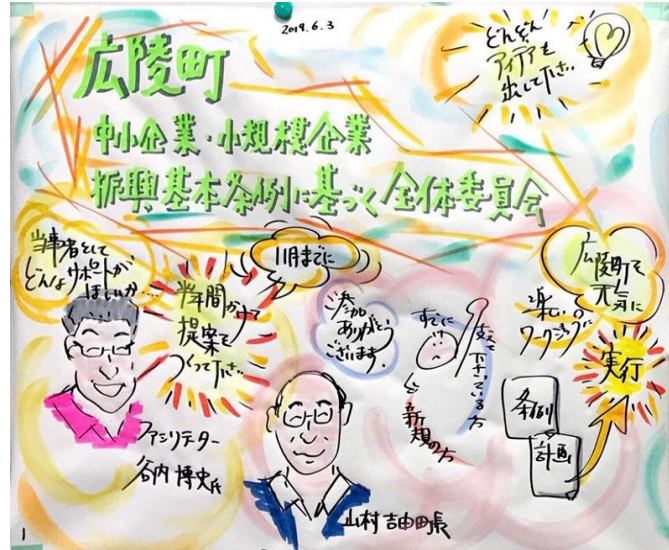
そこで、委員一同から挙げられたさまざまな意見を集約した人材、ブランド、情報発信などの施策を提言します。

第1回全体委員会

場所・日時：役場3階大会議室（6月3日(月)PM6:00~PM9:00）

参加者：事業者28人 金融機関7人

奈良県・近畿経済産業局含む関係機関9人 町長含む町出席者12人

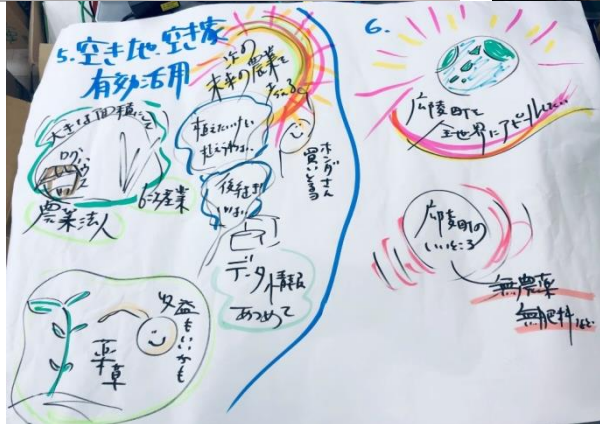
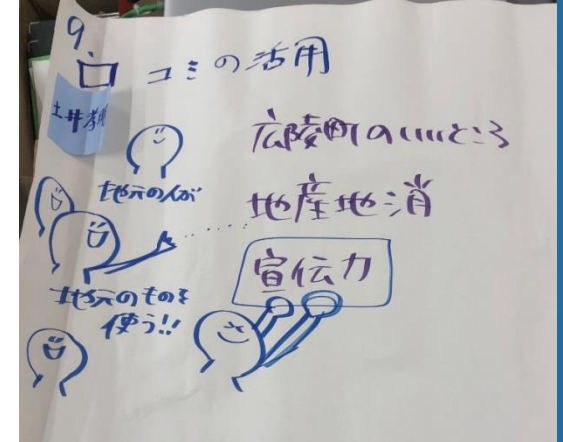
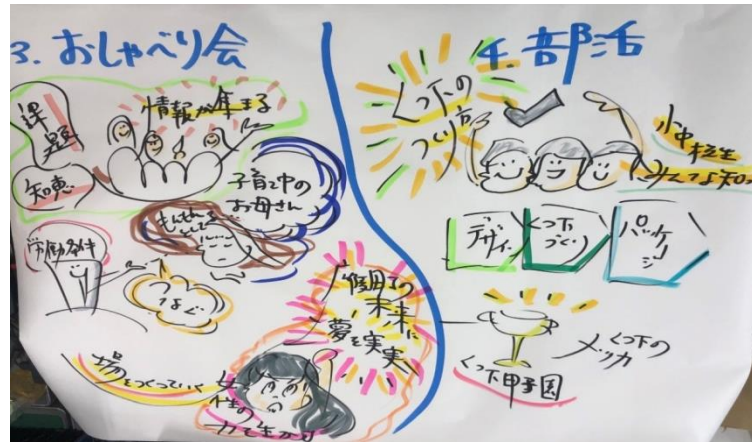


第1回課題別小委委員会

場所・日時：さわやかホール4階大会議室（7月8日(火)PM6:00~PM9:00）

参加者：事業者23人 金融機関4人

奈良県・近畿経済産業局含む関係機関8人 町出席者8人

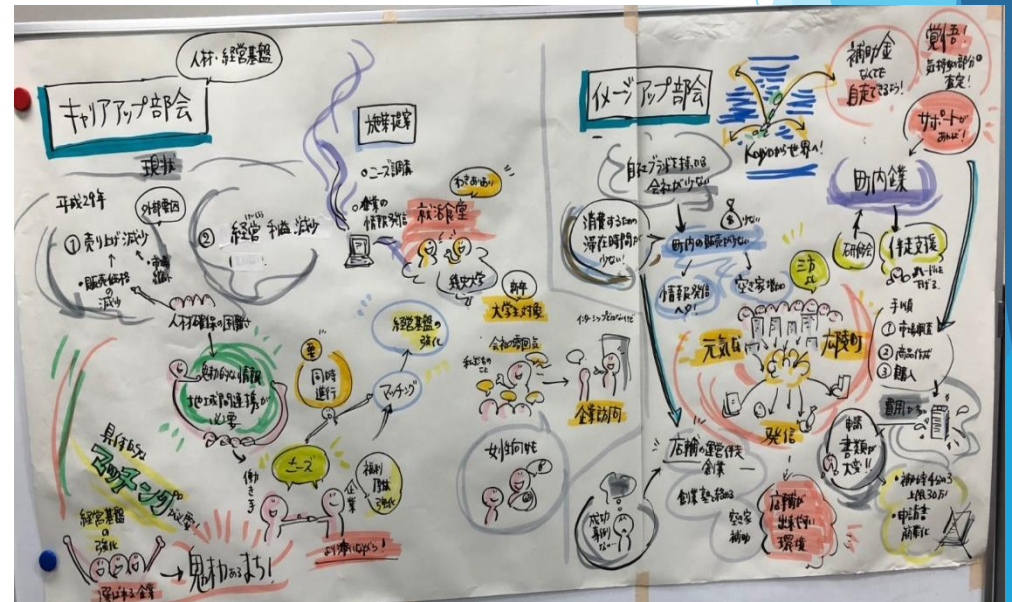
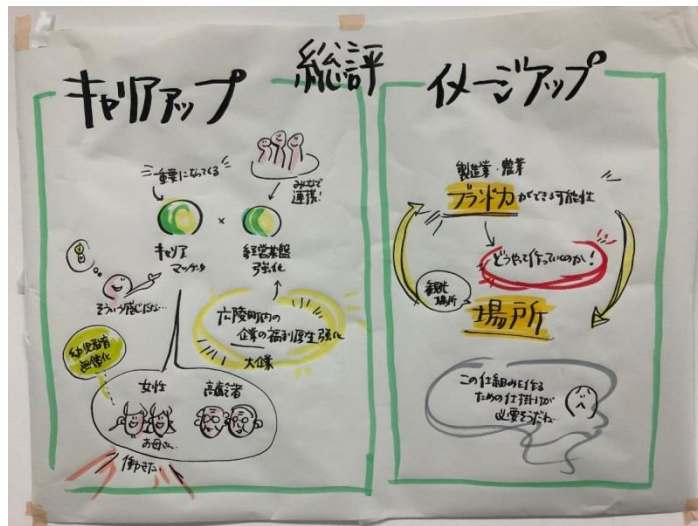
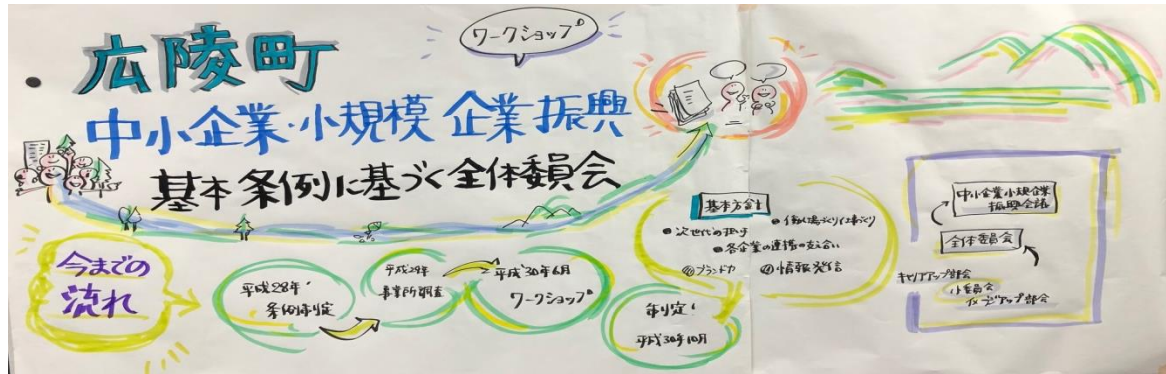


第2回全体委員会

場所・日時：役場3階大会議室（11月12日（火）PM6:00~PM8:30）

参加者：事業者20人 金融機関2人

奈良県・近畿経済産業局含む関係機関8人 町出席者7人





人材マッチングで基盤強化 キャリアアップ部会

(人材・経営基盤)



リーダー 井上 克昭 (昌和莫大小株式会社)

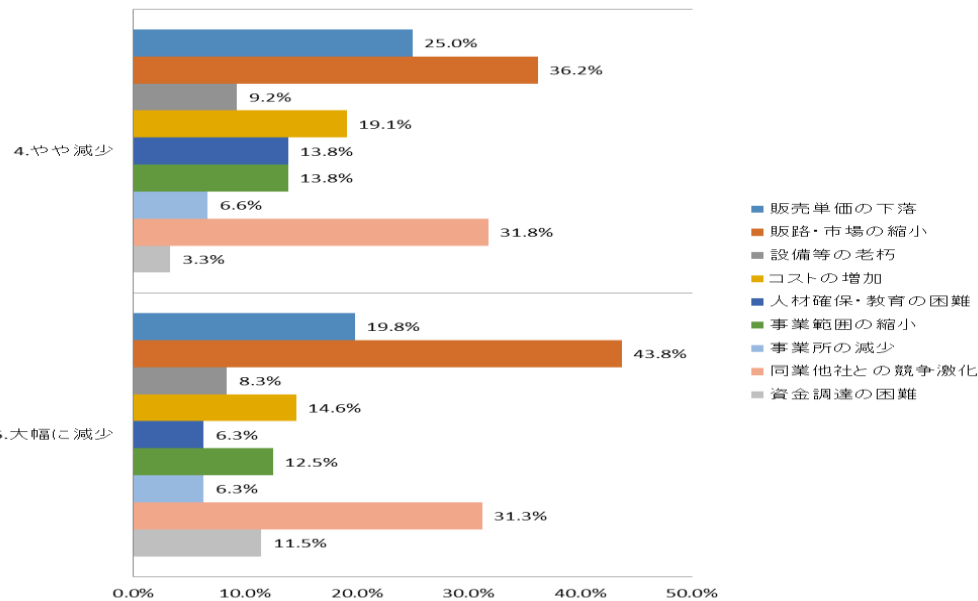
副リーダー 新谷 眞貴子 (家族・子育てを応援する会)

寺田 満雄 (広陵レストラン)

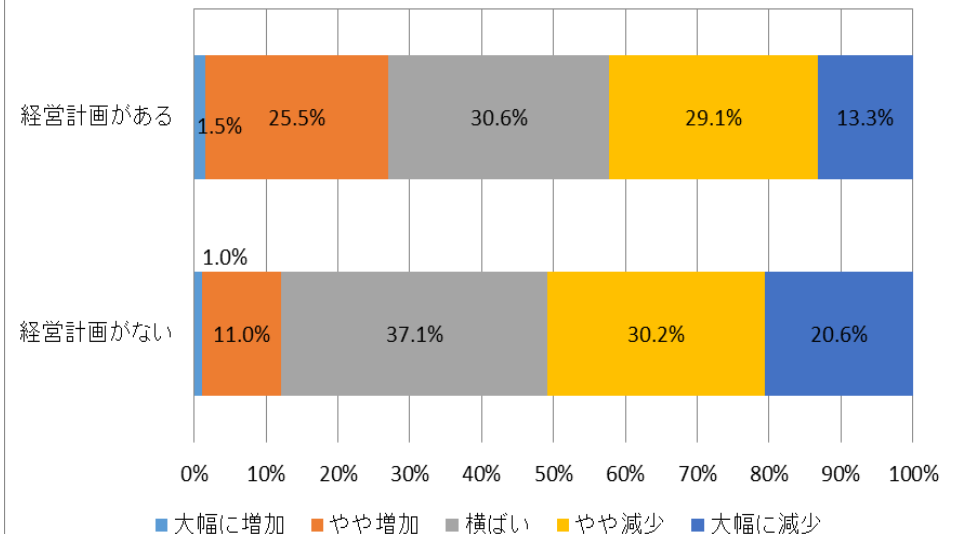
広陵町の現状分析

- 平成29年1月に実施された「広陵町中小企業・小規模事業所実態調査」では
- ・売上高が減少した要因として、販売価格の下落や市場の縮小といった外部環境の変化を除くと、人材確保や人材教育の困難さが要因として最も多く挙げられている。
 - ・自社で経営計画を策定している事業所が策定していない事業所と比較し、経常利益が増加傾向にあることを示している。

売上高減少要因



直近3年間の経常利益の動向



出典：広陵町中小企業・小規模事業所実態調査

目指すべき広陵町の姿

企業と人のマッチング

地域間連携ができるまち

魅力的な企業が集まるまち

広陵町

今後の事業概要

- ・ 年齢や性別、従来のワークスタイルにとらわれることなく、多様な働き方が可能な企業環境を実現することで、幅広いスキルを持った人材が確保でき、革新的なアイデアの創造による製品・サービスの付加価値向上及び事業所の成長に繋げる。
- ・ どのようなニーズが働き手にあるのか実態を調査したうえで、働き手と企業がマッチングできる仕組みを構築することにより、ミスマッチングのない人材確保を図る。また、企業は強固な経営基盤を持つことで、働き手にとって魅力的に映る企業や事業所（福利厚生充実など）となることを目指す。

ニーズ把握

働き手・企業双方に実施

賃金規則や経営計画の策定など

マッチング

企業の働き方改革
福利厚生等の就業環境を
改善する必要がある

働き手・企業双方の
ニーズに合ったマッチング
を行うため、
同時進行する
必要がある

経営基盤の強化

- ・ (仮称) 産業総合振興機構
(企業の間接支援組織)
- ・ 商工会の支援

施策提案

- 働き手と企業のニーズ把握調査
- 企業の情報収集→発信
- 企業と学生・女性 意見交換会（就活食堂）畿央大学からの提案
- 商工会・同友会等の支援を受けて、各種認定企業を増やす



- 働き手がどのような雇用形態や業種、職場環境を求めているのかのニーズ及びどのようなスキルを持っているのかを把握するため、畿央大学と連携のうえ、事業所と学生による意見交換会や町内在住の方を対象とした実態調査、セミナーを実施。
- そのニーズに企業がどれだけ寄り添う意思があるのか、またどのような人材を求めているのかについて把握するため、規模別の雇用実態調査を行う。
- 企業の詳細な情報収集をし、働き手が簡単に見やすいような企業一覧情報を発信する。

まとめ



いくら人材と触れ合える機会が増えても・・・
私たち企業が魅力的で選ばれる企業であり続けなければ
どんな施策で支援を受けても意味が無い
→選ばれる企業になれば優秀な人材が集まり経営基盤の強化も
達成される

その結果

社員・シャイン職場づくり
推進企業（奈良県）
地域未来牽引企業
（経済産業省）

認定される企業が増えれば
広陵町全体が魅力ある元気な企業が集まるまちに



Koryoから世界へ！

イメージアップ部会

(地域間連携・ブランド・情報発信)

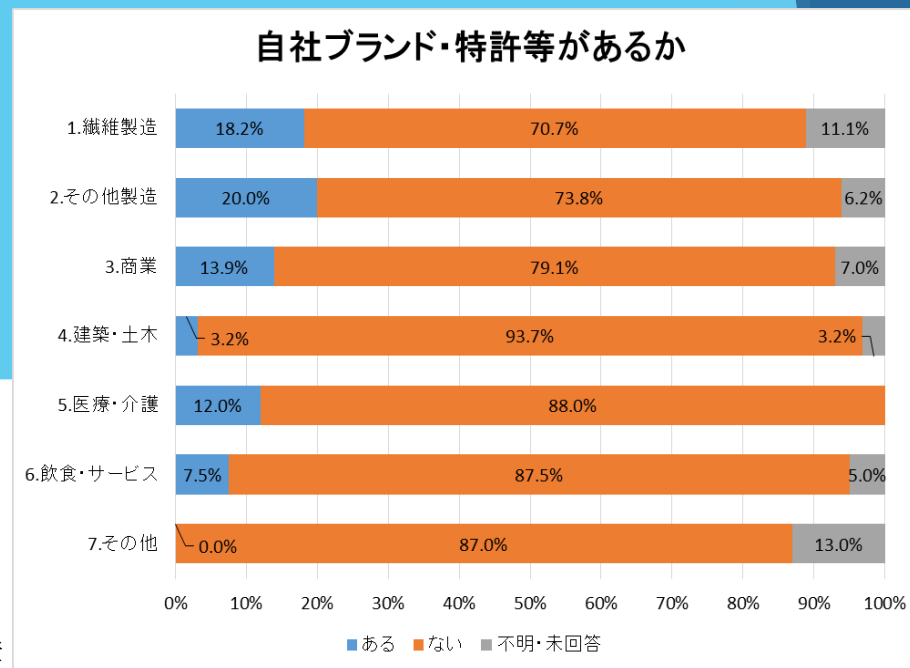


リーダー	野村 泰嵩 (ヤマヤ株式会社)
副リーダー	谷矢 友香子 (caféそらみる)
	上島 雄二 (上島織布工場)



広陵町の現状分析

- ・まず自社ブランド（最終商品）を持つ会社が少ない
→全ての業種で20%以下（2017年に実施した事業所実態調査の結果）
38社中6社（靴下組合ホームページ等アンケート結果）
- ・町内に町内のものを売っている場所がない
（お金が町内に落ちない）
- ・情報発信が下手（ホームページ等）
- ・空き家を活用できていない



出典：広陵町中小企業・小規模事業所実態調査

目指すべき広陵町の姿

「町内に観光拠点

各事業所が自信のある自社ブランドの
さまざまな商品が集まり、

町の魅力を存分に^{はっしん}発揮できる場所」
をつくる

試作品製作補助金①

各社自社ブランド(最終商品)を作る

商品の考案、試作品の作成

試作品の材料の購入、外注依頼

費用が発生!



がんばる企業に対し、サポートが必要

試作品製作補助金②

しかしながら現状は...



事業者

試作品の製作費は設備の導入などに比べ安価なのに、補助金は申請書類がたいへんで、補助率が低く、用意する労力に対し、メリットが少ない。

がんばる企業が活用しやすい補助金が必要

具体的には...

- ▶ 補助率4分の3で上限30万円(目標5件/年)
- ▶ 申請書類は簡素化(プレゼンを実施)し、試作品の提出を義務づける(申請書類の作成については、商工会にて支援)
※ (仮称)産業総合振興機構については、申請後の伴走支援を実施

広陵町の盛り上げに向けた店舗の創業・伴走の支援①

広陵町の課題

良いものがある
しかし
購入・販売ができない ex)靴下、織布

馬見丘陵公園・竹取公園に人がくる
しかし
お金が落ちない
ex)飲食

市場（大阪近郊である）に近い
しかし
寝るだけのベッドタウン

「町内で経済を循環させる」＝「消費までを町内で完結させる」
→人の滞在時間を増やす

「美味しいところは町外に取られている」とも言える。

そのための施策

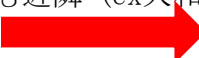
店舗の創業・伴走を支援する ※靴下、織布、プラスチック、美味しい地元野菜・米など
（広陵町に拠点を置く企業の新規事業や町の魅力資源を行かした新規企業）

※「店舗」に絞った理由...エンドユーザー（消費者）を町外から呼び込めると
いう点を重視した

広陵町の盛り上げに向けた店舗の創業・伴走の支援②

支援が必要な理由

①創業を検討する際、広陵町に拘る理由が現状あまりない。

→実際は商圈が広く、地域資源も豊富、道路も近隣（ex大和高田）と比較すると広くて良いと思われるが、成功事例が少なく起業者が二の足を踏む傾向  **町が補助をする**

②創業塾と絡めることで、指導から実現までを町内で完結させることが出来る。

③空き家対策と親和性が高く、町の課題解決にも結びつく。

具体的には... 場所探し、人探し（民間事業者と連携）

▶ 初期投資の補助

（店舗設計デザイン費、リノベーション費用、改装費用、水道・電気関連工事費用等のサポートなど）

補助率4分の1（目標1件/年）

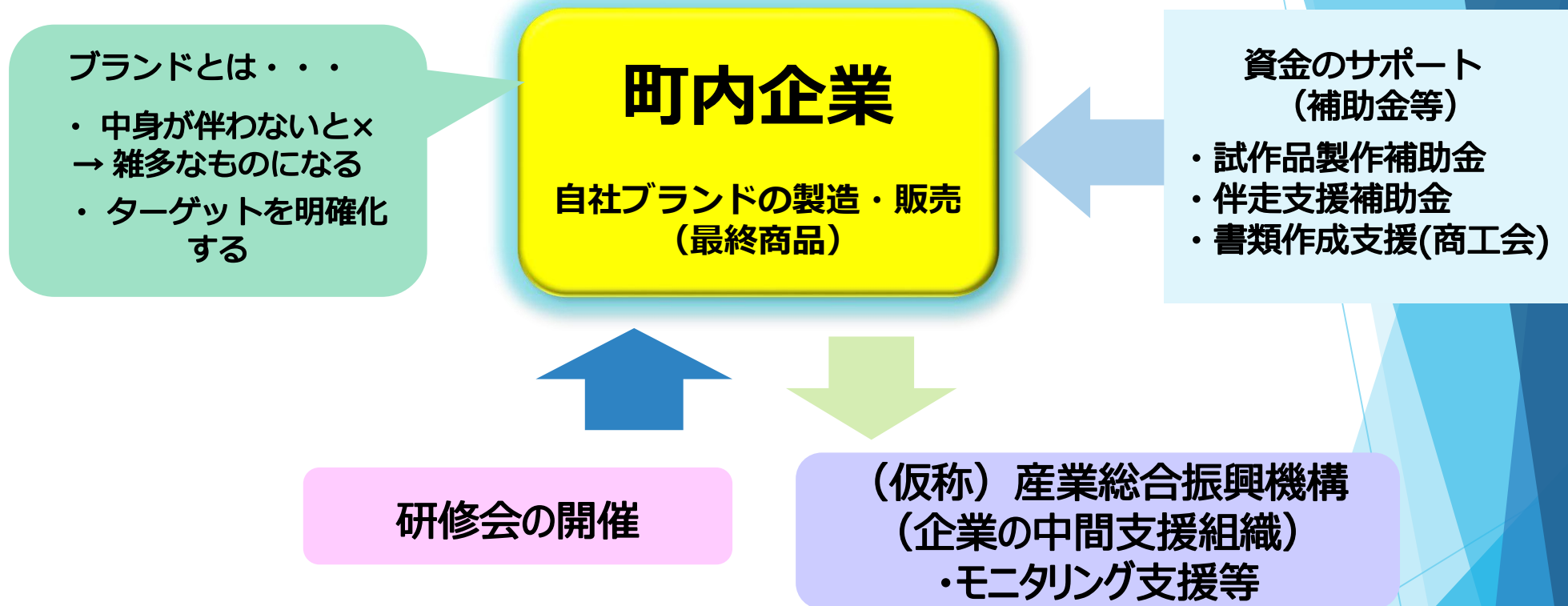
▶ 伴走支援

（店舗機能の強化や新しいチャンレンジのための費用、人の雇用に向けた補助など）

補助率3分の2（目標2件/年）

店舗は開業後一年未満で35%が潰れるという統計がある
→創業支援はあくまでもきっかけを与えるだけで良く、
伴走支援を重視

今後の事業概要



※ 自社ブランドの製造・販売に係る試作品の費用補助やデザイナー等との伴走支援により、**資金面と技術面の両方からアイデアの製品化をサポート。**
また、情報発信や販路開拓など、**完成した最終商品の販売まで継続した支援を行う。**

とはいえ、行政に頼り切りではいけません。

結局は「事業者＝我々」次第。

町内の事業者の皆様とお話する中で、結局は我々が「どのようにしたいか」、「前向きに取り組めるかどうか」が最も重要であるとの話が出ました。

補助金を活用すると、全額投資と比べてリスクを背負わないため、どうしても成功させたいという思いが薄れる可能性もあり、「諸刃の剣」と言えます。

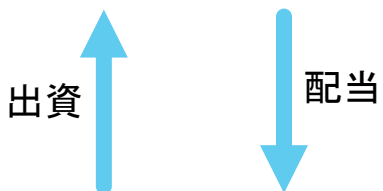
「補助金が無くても、全力で取り組みます。」

このような決意がなければ、結局は税金の無駄になる可能性が高いと思います。

大体、多くの補助金では、必要書類が決まっていますが、それに合わせる必要は無いと思います。

文章には現れない気持ちの部分を査定するような方法を考えて頂ければと思います。

将来のイメージ



寄付者のメリット

- ・寄付金控除
- ・観光拠点での特典を検討中

民間資金提供者
(一般市民含む投資家)

寄付金募集

広陵町や広陵町企業の発展は・
広陵町民が広陵町を好きになる！
興味をもつ！ 関心をもつ！ 事が
町の活性化に繋がる!